



TITLE:

文化現象の凝集作用(三)

AUTHOR(S):

恒藤, 恭

CITATION:

恒藤, 恭. 文化現象の凝集作用(三). 經濟論叢 1927, 25(5): 1038-1049

ISSUE DATE:

1927-11-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/128606>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

叢論經濟

號五第

卷五十二第

行發日一月一十年二和昭

論叢

利子の泉源について……………文學博士 高田 保馬

租税に於ける家計……………法學博士 神戸 正雄

近世貿易の趨勢……………文學博士 三浦 周行

徳川時代に於ける長崎の支那貿易……………文學博士 矢野 仁一

普遍化了解科學……………文學博士 米田庄太郎

文化現象の凝集作用……………法學士 恒藤 恭

說苑

岡山藩の自營船廠……………經濟學士 黒 正 巖

雜錄

明治維新の成否に關する維新當時の一觀察……………經濟學博士 本庄榮治郎

産業界變動の豫測……………經濟學士 大塚 一朗

海上保險の發顯地に關する一異說……………經濟學士 近藤 文二

戰前戰後の歐洲財政……………經濟學博士 沙見 三郎

文化現象の凝集作用 (三)

恒 藤 恭

八 文化現象の集中作用と其凝集作用

文化現象の凝集作用と類似した様相を呈し、それと混同される惧れのあるのは、文化現象の集中作用である。前述の如く、文化現象の凝集作用の概念は主として認識論的又は方法論的興味からして問題とされるのであり、此概念の表明せむとする所は、『或る種の文化領域においてその種の文化現象の本質が個々の現象の内容を通じて顯現する形態が不齊一であり、一群の現象においては本質的内容が比較的に純粹に且つ充實せる形態において與へられたるに反して、他の群の現象においては反對の趣を呈する傾向が存する』といふ事實である。しかるに文化現象の集中作用の概念は専ら經驗科學の見地からして問題とされるのであり、此概念の表明せむとする所は、『一定の事實的文化領域、即ち一定の文化地域、文化時域もしくは文化社會域に着眼するとき、その中の比較的に局限された部分においては或る種の文化現象が多量に集中して與へられるに反

し、その他の部分においては稀薄なる分布状態において與へられる場合が存する」といふ事實である。

文化現象の凝集を來す社會的原因とその集中を促す社會的原因とが同一である場合又は互ひに密接な關聯を有する場合は多いけれど、しかも此れらの二種の現象は必ずしも一致して又は平行して成り立つものではなく、一方の與へられてゐる處に必ずしも他方が與へられてゐるとは限らず、二者は原理的に異なる現象である。

集中形態を提示する文化現象の性質如何によつて、言ひかへると、集中する現象が文化主體であるか、文化活動であるか、文化財であるか、文化組織であるかによつて、文化現象の集中作用の様相は多様である。そして事實的文化領域の如何なる方面に着眼されるかに従つて、文化地域的集中、文化時域的集中、文化社會域的集中等が區別し得られるし、更に例へば文化地域については、國際的、國內的、地方的、地區的集中等が觀取し得られる。

文化現象の集中作用は從來主として經濟現象とか政治現象とかについて注目され考究されてゐる觀があるけれど、その他の諸々の文化現象についても集中作用の概念は十分なる意義を有し、それらの現象の集中作用の事實は事實的文化領域の構造なり發展形態なりを認識する上に重要な因素の一を成すものと云はねばならぬ。そして各種の文化現象が空間、時間、社會の諸見點か

ら觀て如何なる集中状態を示すかといふことは、或る時代の或る社會にあたへられた文化領域の個性的内容を形成する一成分たると共に、その普遍的態様の認識の爲にも役立つ意義を有する。

かやうに文化科學的考察にとつて文化現象の集中作用は重要な問題の一を成すけれど、其れは文化現象の本質の顯現する態様とは交渉する所なく、從つて文化現象の本質の認識を問題とする見地からしては特に顧慮されることを要せぬ。文化現象の集中状態の存する處に文化現象の凝集作用を觀取し得る場合が多いけれど、後者は文化現象の非集中状態の存する處にも屢々觀取され得る。文化現象が一定の時域、地域、社會域に集中せるか否かを考察する見地においては、本質的内容をも非本質的内容をも具有せる文化現象の各者が等質的内容をそなへた對象的單位として視られるのであつて、それらの現象が如何なる形態において本質的内容をそなへてゐるかは、全く考慮の外に置かれてゐる。

文化現象の凝集作用、分化作用及び集中作用の三者は、大體において互ひに密接なる關聯をもつものであるけれど、文化現象の凝集作用と集中作用との關聯は、前者と分化作用との關聯の如く緊密なるものではない。

文化現象の凝集作用も、その集中作用も、いづれも文化現象の本質に基いて必然に成り立つ現象ではない。文化現象の本質が實在の世界の内面においてのみ顯現され能ふものである事は文化

現象の本質に屬するけれど、文化現象の本質が何故に一樣なる形態において實在の世界に顯現され能はぬか、また文化現象が何故に空間的、時間的又は社會的に見て一樣なる仕方で實在の世界に顯現され能はぬかは、文化現象の本質からして理會されるものではなく、實在の世界の本質からして初めて理會される所である。而して文化現象の凝集作用についても集中作用についても、實在の世界における文化現象の成立の様相に關聯して文化的内容が或る中心に集中する傾向が問題とされては居るものゝ、一の場合には意味的な廣がりの中に本質的意味内容が一群の現象に集中する傾向が注目されるに反し、他の場合には現實的な廣がりにおいて事實的内容が一定の範圍に集中する傾向が注目されるのである。

九 文化現象の本質と其理念について

各種の文化領域はそれに特有なる文化現象の本質を基礎として成り立つものであり、同一の本質が諸々の文化現象の内容を通して顯現する限りにおいて一の文化領域は展開するのである。しかるに、各種の文化領域はそれに特有なる文化現象の本質を豫想するのみならず、またそれに特有なる文化現象の理念を豫想するものである。すなはち吾々は文化現象に關してその本質と理念とを區別しなければならぬ。

個々の文化現象が或は價值を有するものとして、或は反價值を有するものとして、判斷され能ふやうな性狀をそなへつつ成立すると云ふことは、文化現象の一般的本質に屬する。あらゆる文化現象は何らかの種別の價值に對して沒交渉的、中立的地位に立つものではない。斯かる必然的運命を荷ふことによつて文化現象は原理的に自然現象から區別される。而して價值の多元的なるに照應して文化領域も多元的であり、各種の文化領域の中にあたへられる個々の文化現象の價值又は反價值の判斷も斯かる一般的條件の支配に服する。

個々の文化現象の價值又は反價值の判斷を可能ならしめる規準を成すものは文化現象の理念である。言ひかへると、一定の文化領域に特有なる文化現象の理念の見地から鑑別されるとき、その領域に屬する個々の文化現象の價值又は反價值が認識されるのであり、斯かる理念に對する積極的又は消極的距離に應じて個々の文化現象の價值の量も規定し得られるのである。

しかるに、文化現象とその本質との關係は、右に述べたやうな文化現象とその理念との關係とは根本的に趣を異にする。文化現象の理念が文化現象の價值又は意義の判斷の規準たるのと異なつて、文化現象の本質は文化現象其者の本來的性質又は素質の認識の規準を成す。反覆して言へば、一の文化領域に特有なる本質を顯現することの故に、個々の現象はその領域に屬する文化現象たるものとして認識される。だから、同一の文化領域に屬する限りは、あらゆる文化現象はひ

としく同一の本質的内容を具有し、従つて本質に叶ふものと反するものとに區別されることを得ない。唯、文化現象の凝集作用の概念の示す如く、同一の文化領域の内面において比較的に純粹なる且つ充實せる形態において本質を顯現する文化現象と、然らざる文化現象をわち得るに止まる。而して文化現象の本質を純粹かつ充實せる形態において顯現するところの現象は、文化現象の理念に合し、文化現象の本質を不純粹かつ稀薄なる形態において顯現するところの現象は文化現象の理念に反するといふやうに判斷し能ふものではない。文化現象の理念と本質とは判斷の規準として別異の機能をいとなむものである。

但、文化現象の本質の概念を異なる見地から別様の意味において定立することは可能である。

すなはち認識論的もしくは方法論の見地からは、以上に規定したやうな意味において文化現象の本質を概念し、更に價值論的又は理想論の見地からは、文化現象の理念を目して、文化現象の本質と呼ぶことを妨げぬであらう。しかる時は、前の見地から定立された文化現象の本質の概念は、文化現象の對象的本質の概念と名づけ、後の見地から定立された其れは、文化現象の價值的又は理想的本質の概念と名づけ能ふであらう。

たとへば、或る道德現象は、眞に道德現象である以上は、必ず道德現象としての本質的内容を具備せざるは無い。斯く云ふ場合には、道德現象の對象的本質が念頭に置かれてゐると考へ得ら

れるであらう。他方において、あらゆる道德現象は、道德現象の理念を規準として、善を意味するものと惡を意味するものとに判別される。而して善を意味する道德現象の本質と、惡を意味する道德現象の本質とが同一でなく、且つ此らの二様の本質が道德現象其者の（對象的）本質と異なる意義を有する故にこそ、ひとしく道德的文化領域の中にあたへられる現象の中に善をあらはすものと惡をあらはすものの二種が區別され能ふわけである。斯かる立言において善を意味する道德現象の本質といひ又は惡を意味する道德現象の本質といふのは、畢竟、道德の理念を意味するものとしての本質と、これに正反對なる意味を有するものとしての本質を指すものに他ならぬ。

文化現象の凝集作用を問題とする場合に前提されるところの文化現象の本質の概念は文化現象の對象的本質を意味するものであつて、その理想的本質を意味するものではない、だから文化現象が凝集状態を提示するとき、其處に文化現象の本質が比較的に純粹且つ豊富に顯現されると言つても、斯かる状態が文化現象の理念に照らして望まじきものであること、云ひかへると、文化現象の理想的本質の純粹かつ充實せる顯現の状態たることを主張するものではない。

十 文化現象の本質の顯現形態

或る文化領域において文化現象の凝集状態が成り立つ處に其領域に特有なる文化現象の本質が比較的に純粹且つ充實せる状態において顯現されるといふ時、文化現象の純粹にして充實せる顯現の様相とは何を意味するのであるか。

生活實在の構成素材たる原本的實在要素は、文化的認識の諸見點のいづれから考察されるかによつて、異なる文化現象の構成分子として認識される可能性をもつ。だから、若干の實在要素が相關聯して一個の文化現象を形成する態様は複雑たらざるを得ず、それに基いて諸種の文化現象は謂はば互ひに抱合し錯綜しつつ生活實在の中に與へられる。すなはち生活實在の内面において或る種の文化現象が少しも他の種の文化現象と結合することなく單純にそれだけ存在すると云ふやうな場合は例外的であり、同一の基盤の上に二種以上の文化現象が並び成立するのを原則とする。たとへば、言語現象は宗教現象、藝術現象、法律現象、經濟現象等と結合して成り立つを常とする。宗教現象と藝術現象と言語現象とが結合せる場合(例へば讚美歌、和讃)法律現象と經濟現象と言語現象との結合せる場合(例へば商品の小賣的取引、取引所における立會)、言語現象と藝術現象との二者の結合したものが法律現象及び經濟現象の結合したものと同様に結合してあたへられる場合(例へば有價契約の履行として爲される歌唱)などを舉示しただけでも、現實の生活實在における異種の文化現象の錯雜せる成立状態は料り知られるであらう。各種の文化科學的認識

は斯かる直接的具體的事實に對し一定の認識見點から抽象作用を施し、之を一面的に展開せしめて他種の文化領域から思想的に隔離せる一の文化領域を成り立たしめる。而して斯くして獲得された抽象的文化領域の統一的様相を把持しつゝ、生活實在の異質的具體的様相に當面するとき、同一種類の文化現象が甚だ複雑な仕方では他の諸種の文化現象の間に介入せるのを觀取し能ふのである。

文化現象の本質は文化現象が文化現象として成り立つ爲の根據を成す。例へばAなる文化領域に屬する文化現象aは必ずや一定の本質的内容αを具有することにより文化現象aとして成り立つ。しかしながらこの場合に文化現象aにおいて非本質的内容と共に見出されるところの本質的内容αは固定不動の成分から形成され、文化現象aの見本たる文化現象a'、a''、a'''等の相互の差異は、單に本質的内容αに附加する非本質的内容の種類又は分量の異なることに基いて生じるものではない。文化現象aの本質的内容αは動的弾力性を有し、それが個々の文化現象a'、a''、a'''等において非本質的内容と結合して後者を支配する態様は、個々の現象の異なるにつれて必ずしも一樣ではない。文化現象の本質が比較的純粹なる且つ充實せる形態において顯現する場合と然らざる場合との存するのは、右のやうな事情に基因する。

凝集状態にある文化現象の第一の特徴は、その形態が判明なる限界によつて圍まれてゐる事で

ある。文化活動の主體について言へば、例へば、宗教生活における僧侶又は牧師、法律生活における裁判官又は辯護士、政治生活における國務大臣又は國會議員、經濟生活における金融業者又は工場労働者、教育生活における學校教師又は學生等の如きは、斯かる見點からして判明に限界づけられたところの形態を有する文化現象であると言ひ得る。文化財について言へば——そして前の例と平行した例を示すならば、宗教生活における寺院の建築又は經典、法律生活における法廷の設備又は法典、政治生活における議事堂又は投票手段、經濟生活における工場又は商品、教育生活における學校又は實驗材料等において、同様の條件をみたす文化現象が與へられる。これらの場合において、例へば或る建築物が寺院として又は工場としての意義をもつとき、それは單に空間的に判然と限界づけられた直觀的形態をもつのみならず、宗教的生活方向又は經濟的生活方向への一義的關聯が人間によつて自覺的に設定され、且つ社會的承認を受けて居る爲に、判明なる文化意味的形態を有するものとして認識され能ふのである。

右のやうな條件をみたすところの或る種の文化現象がその種の文化現象の固有する特色を濃厚にかつ鮮明にあらはすやうな仕方で成り立つとき、その種の文化現象の本質が比較的に純粹な且つ充實せる形態において顯現せるものと言ひ得る。前述の如く、同一の原本的實在要素は二種以上の文化現象の構成分子としての機能をいとなみ能ふものであり、従つて同一の基盤の上に唯一

つの種類の文化現象のみが成立してゐると云ふ意味において文化現象の本質の純粹なる顯現狀態を思惟することは妥當でない。同一の基盤に立脚して異種の文化現象が成り立つ處に、その中の一つの種類の文化現象がその特色を濃厚に且つ鮮明に發揮して居り、他の種類の文化現象の共存がむしろ其爲に役立つてゐるやうな場合には、文化現象の本質の純粹なる顯現が觀取され能ふのであり、他面から言へば、文化現象の本質が充實せる形態において顯現してゐるのである。例へば、寺院の建築は宗教現象たる意義をもつと同時に、多くの場合に藝術現象なる意義をも有する。しかも其造形美術的内容が、祭祀、祈禱、安息等の場所としての宗教的意義によく調和するものであり、前者が後者の効果を強め又は深めるものであるとき、寺院の建築において宗教現象の本質は比較的に純粹にかつ充實せる形態において顯現する。宗教の理念の立場から考へるならば、寺院の建築とか、其處で行はれる儀式とか禮拜とかの如きは、必ずしも宗教の(理想的)本質を純粹に且つ豐滿にあらはすものと言ひ得ず、反つてその純粹、貧疎なるあらはれである事がなにとも限らぬ。唯、宗教現象を文化現象の一種として經驗科學的に認識する立場にとつては、斯やうに宗教の理念の立場から見た宗教現象の本質のあらはれを問題とすることは許されない。

また例へば、或る宗教團體が土地の一定範圍を占據し、その宗教的信條に基いて自足的經濟生活をしてゐる場合、これを一の經濟現象として觀るとき、斯かる現象の宗教的意義は十

分にその經濟的意義に應化し調和して居ると言ひ難く、從つて斯かる現象において經濟現象の本質の比較的に純粹なる顯現の様相を認識することを得ない。斯かる場合においてはむしろ經濟現象の擴散狀態に當面するのであるが、これに比すれば例へば近代工場生産において經濟現象の本質が遙かにより、純粹に且つより、豐滿なる形態において顯現せることは明かである。數量化された物的價値の相互的關聯を直接又は間接に反映することは經濟現象の根本的特色を成すものであるが、自足的經濟單位において生産される財に比すれば斯かる特色は商品において一層明瞭にあらはれ、貨幣において特にその程度が大である。云ひかへると、商品もしくは貨幣は經濟現象の本質の純粹にして充實せる顯現の様相を提示するものである。また例へば、社會的集團の成員の意思如何に拘らず一定の生活樣式の遵守に對する要求の貫徹される點に法律現象の特色は存するのであるが、かやうな特色は國家組織を中心として成り立つ法律現象において特に鮮明にあらはれるのであり、從つて其處に法律現象の凝集狀態が認識され能ふのである。